



スタジオサブの卓

TBS赤坂BLITZスタジオ（Hスタジオ）に 波形モニター LV5600 導入

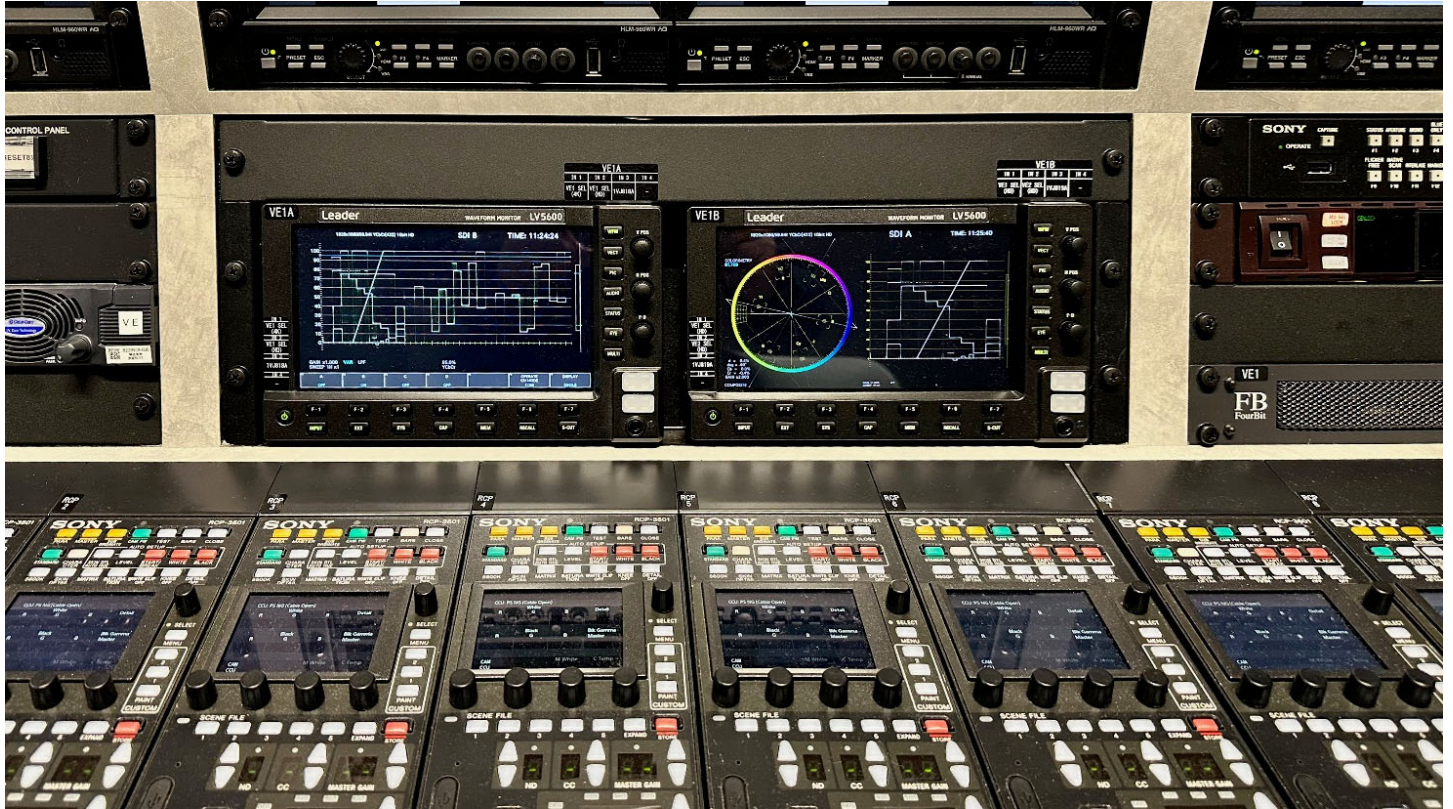
TBS赤坂BLITZスタジオ Hスタジオ（東京都港区赤坂）へ訪問して、株式会社TBSメディアテクノロジー局 制作技術統括部 鈴木昭平氏にお話を伺いました。

TBS放送センター内には、A～G、Pと報道がメイン用途のNスタジオがあり、ここTBS赤坂BLITZスタジオは、Hスタジオと称され、4K収録に対応したスタジオです。このスタジオが企画されたのが、2019年で、建物完成後の2022年7月に放送設備工事を開始しました。運用開始となった2022年10月8日の「お笑いの日」では局内サブと連携して、地上波生放送を行いました。また、VODサービスに向けた4K収録、レギュラーで地上波、BS放送用の収録も行っています。今、求められるHD、4Kに対応したスタジオです。

スタジオサブでは、音声卓、TD卓、照明卓が最前列に並び、その後列にVE卓が配置されています。

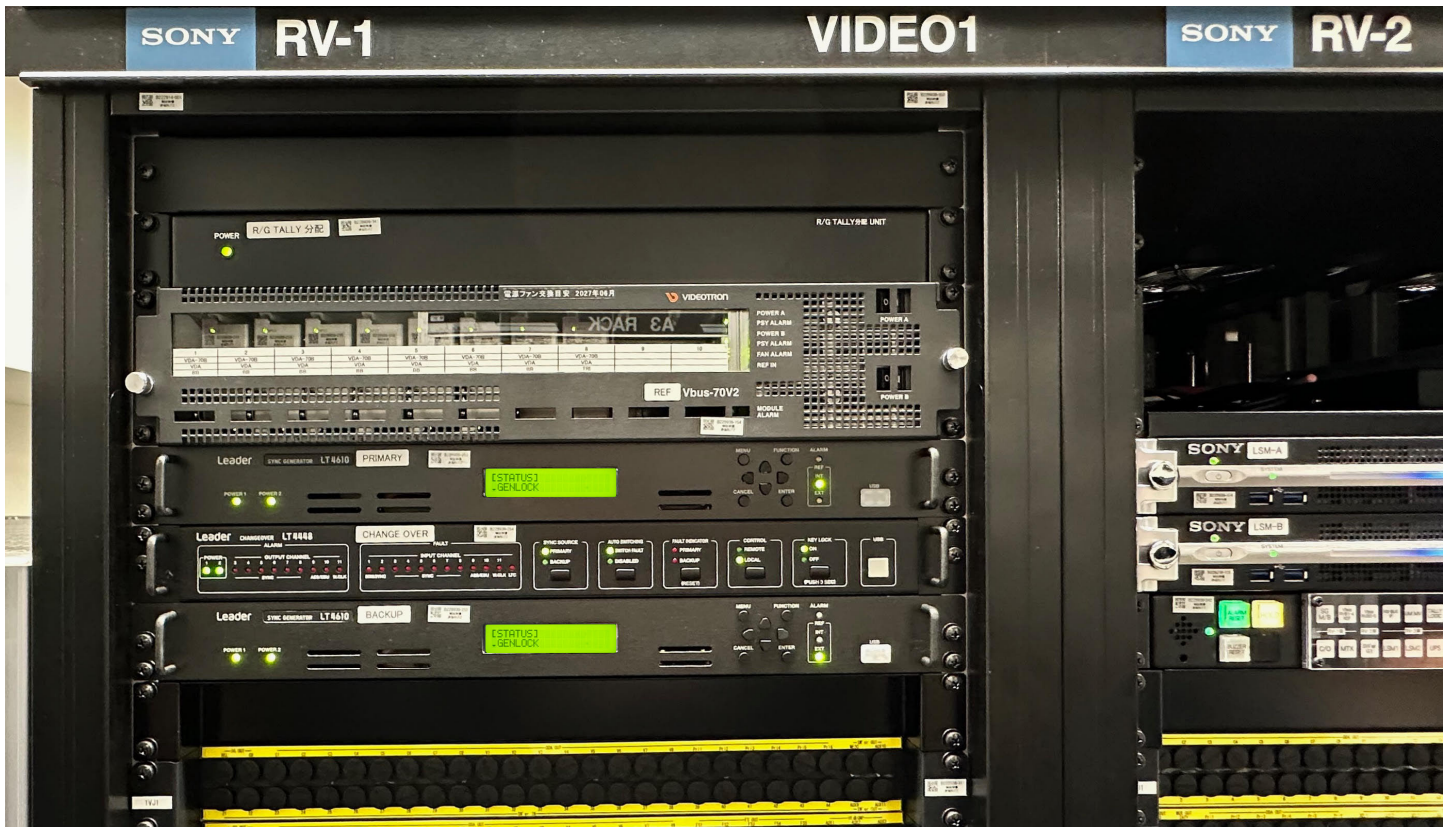
このスタジオサブは送出マスターと直接つながってなく、生放送の際は回線センター経由で局内の受けサブとつないで放送します。収録メインのHスタジオはカメラとVTR（収録デッキ）がワンセットになったシンプルな設計になっています。

VE卓では、HD、4Kの切り替えが容易にできます。VE卓の中心にリーダー電子の波形モニターLV5600を2台設置しています。4Kの場合は片方を4Kモニターとして使用し、通常運用時は、どちらもHDで使用しており、LV5600 を用途に合わせて複合的・効率的に運用しています。



VE卓に設置されたLV5600

波形モニターの他に、ラック室には同期信号源として、シンクジェネレーターLT4610をPRIMARY、BACKUPの2台、チェンジオーバーLT4448を設備しています。



ラック室に設置されたLT4610とLT4448

現在、TBSでは砧スタジオで制作されていた番組をHスタジオに移行中です。スタジオの運用は、TBS放送センター内のA～G、P及びNスタジオの運用は、主にTBSアクトのエンジニアが担当しています。Hスタジオも基本的にはTBSアクトによる運用ですが、外部へ収録用に貸し出すスタジオとしての側面もあるため、各方面のオペレーターが来ても運用しやすい設計になっています。



Hスタジオ：照明は、スポットも含めフルLED。 horizont は設けず、カーテンウォールで囲む。

鈴木様、ご説明ありがとうございます。

弊社のLV5600は、4つの入力端子を装備し、SDから12GまでのSDI信号に対応します。HD-SDI信号の4入力同時表示も強みです。同期信号系でも弊社の製品をご採用下さり、ありがとうございます。リーダー電子の製品を最新のスタジオでご活用いただき、今後もクオリティーの高い番組を制作いただければ幸いです。

本日は、お忙しい中ご対応下さり、ありがとうございました。

参考データ

株式会社 TBSテレビ

<https://www.tbsholdings.co.jp/tbstv/>

BLITZスタジオの紹介

<https://topics.tbs.co.jp/article/detail/?id=16889>

波形モニター LV5600

<https://www.leader.co.jp/products/broadcast/waveform/lv5600/>

シンクジェネレーター LT4610

<https://www.leader.co.jp/products/broadcast/sg/lt4610/>

チェンジオーバー LT4448

<https://www.leader.co.jp/products/broadcast/sg/lt4448/>



波形モニター LV5600

リーダー電子株式会社

本社・横浜市港北区綱島東 2-6-33 TEL(045)541-2122 (代表)

●関西営業所 (06)6192-1152

URL : www.leader.co.jp メール: sales@leader.co.jp